



第4回 看護師のための認知症ケア講座 開催のご案内

2025年には、認知症高齢者は約700万人に上ると言われ、実に65歳以上の5人に1人が認知症を持つと言われています。認知症は誰もが身近な病気であり、超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護の従事者は全員、認知症ケアのプロであることが求められるようになるでしょう。このような背景から、平成28年診療報酬改定では認知症ケア加算が新設され、医療保険でも身体拘束廃止に向けての取り組みがようやく本格的に進められようとしています。認知症は、医療関係者のみでなく地域としても対応しなければならないものですが、その要となるのは看護師の皆様です。本講座では、認知症を知り、認知症をもつ人と向き合い、多職種チームでよりよいケアを提供できるよう、看護師の皆様に焦点を絞った第4回研修会を開催いたします。奮ってご参加くださいますようお願い致します。

プログラム (予定)

【1日目】6月30日 (金)

12:55～ 13:00	開講挨拶	
13:00～ 14:20	認知症の原因疾患と病態・治療 講師：熊谷頼佳（京浜病院理事長） 看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。	
14:30～ 17:00 うち 休憩 10分	入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術 (演習含む) 講師：小泉則子（永生病院 認知症認定看護師・主任） 認知症の人に適切な看護を提供するためには、そのファーストステップとして、アセスメントをもとにケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならないこと、見落としはならないことは何かを考えよう。	
	演習	認知症のある患者の実際の様子をビデオを用いて数症例提示し、その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何か、また、必要な援助技術は何かを考える

【2日目】7月1日 (土)

9:00～ 11:20 うち 休憩 10分	コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法 (演習含む) 講師：戸谷幸佳（内田病院老人看護専門看護師） どのように認知症の人とコミュニケーションをとればよいのか。その人が暮らしてきた生活環境を大切に、施設内での環境、あるいは地域での環境を整え、より穏やかに過ごしてもらうことを考えよう。	
	演習	重度認知症の困難症例を提示し、コミュニケーションのとり方、医療チームでの対応の仕方などを、ディスカッションをとおして考える
11:30～ 14:00 うち昼食 休憩 30分	行動・心理症状 (BPSD)、せん妄の予防と対応法 (演習含む) 講師：田中志子（内田病院理事長） 認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。	
	演習	BPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションをとおして考える
14:10～ 15:30	認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援 講師：田中志子（内田病院理事長） 身体拘束が認知症の人に与える影響、エンドオブライフの意思確認など、患者、家族の視点に立ちサポートすることを考えよう。	
15:30	閉講	



日本慢性期医療協会

第4回 看護師のための認知症ケア講座 開催概要

日程：平成29年6月30日・7月1日（金・土）

場所：東京都心部 ※決定次第、ホームページにてご案内致します。

定員：看護師250名（先着順） ※定員に達した段階で申込受付を締切ります。

参加費：日本慢性期医療協会会員12,000円 会員外20,000円（1日昼食を含む）

● 本研修は、診療報酬上の「認知症ケア加算2」の加算要件に該当します。

● 遅刻・早退・中抜けなどがある場合、修了証書を発行いたしかねます。

第4回 看護師のための認知症ケア講座
参加申込書6/30・7/1
東京

返信先 FAX: 03-3355-3122 日本慢性期医療協会事務局

申込締切：平成29年4月15日（土）

日本慢性期医療協会

会員施設

非会員施設

貴施設名

住所

TEL

()

連絡担当者氏名

役職

ふりがな 参加者氏名	役職	看護師 経験年数	性別
			男・女
			男・女
			男・女
			男・女

※ 連絡担当者様宛に、参加案内や参加費請求書等を、平成29年5月中旬頃にお送りいたします。

※ 満席のため参加受付を終了している場合は、お申込み後3営業日以内にご連絡いたします。